

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2022

課題番号：21K17628

研究課題名（和文）日本における中国武術の受容と変容：研究基盤構築と日本武道の影響に着目して

研究課題名（英文）Transformation and acceptance of Chinese martial arts in Japan: Focusing on the research infrastructure construction and influence of Japanese martial arts

研究代表者

劉 暢 (LIU, CHANG)

早稲田大学・スポーツ科学大学院・助教

研究者番号：30880330

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では日本において、現存する中国武術の史・資料の整理、および新たな史・資料の収集、重要史・資料の翻訳、中国武術の近代化過程で日本武道よりどのような影響を受けたのか、という二つの課題を立てた。

に関して、関係図書1027冊（電子書籍も含む）、雑誌886冊など、中国武術に言及した一次資料を含む史・資料計2000点以上を収集することができた。これによって中国武術研究の基盤構築を試みた。の問題に関して、20世紀前半の中国で刊行された日本武道の訳書、中等学校で使用した教材などを用い、柔道の技術（特に寝技、関節技など）がシュアイジャオ（中国式のレスリング）に影響を与えたことを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本国内における中国武術に関する研究は関係史・資料の不整備や一次史料の不足のため、僅少である。本研究は中国武術研究に新たな研究材料を提供し、中国武術と日本武道の関係の整理、並びに両者の伝播過程をより包括的に捉えるための重要な作業として位置付けることができる。そこに本研究の学術的意義がある。日本では中国武術は武術太極拳と称されており、その愛好者人口は約150万人いる。本研究の成果を通して武術太極拳を愛好者や、中国武術と関係の深い日本武道の愛好者にそれぞれが実践している技術の歴史を知る機会を提供した点や、文化資料を保存した点に本研究の社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, we set two topics regarding Chinese martial arts in Japan. Firstly, we aimed to organize existing historical materials on Chinese martial arts, as well as collect new records and materials, and translate important historical documents. Secondly, we sought to examine the influence of Japanese martial arts on the modernization of Chinese martial arts. Regarding the first topic, we were able to collect over 2,000 historical materials, including 1027 books (including e-books) and 866 magazines, which mentioned Chinese martial arts. This collection allowed us to lay the foundation for the study of Chinese martial arts. Regarding the second topic, we utilized translated books on Japanese martial arts published in China in the first half of the 20th century and educational materials used in secondary schools. Through this analysis, we confirmed that techniques from Judo, particularly ground techniques and joint locks, had an influence on Shuaijiao, the Chinese style of wrestling.

研究分野：スポーツ史、武術史

キーワード：中国武術 武術太極拳 近代化 柔道 武道 wushu 競技化

1. 研究開始当初の背景

日本では中国武術を武術太極拳と称しており、2019年より武術太極拳は国民体育大会の公開競技種目として実施されるようになった。その愛好者人口は約150万人(日本武術太極拳連盟, 2014)に達し、剣道の約180万人(全日本剣道連盟, 2016)と比較しても劣らないものである。中国武術がどのように日本に伝播し、受容されたのか。申請者はこれまでこの問題について研究に従事してきた。その過程で日本における中国武術に関する史・資料が整備されていないのみならず、また一次史料が不足していることを痛感した。

日本で中国武術に関する研究が初めてみられたのは1972年のことである。以降今日まで、太極拳の身体機能向上などを検討する理系研究を除く、文系研究は65篇しか蓄積されていない。申請者が65篇の文系研究を分析したところ、24篇は中国武術を実践している日本人研究者によって、41篇は来日した中国人研究者によって行なわれたことがわかり、このうち、一次史料の使用率を見ると日本人研究者(37.5%)は中国人研究者(82.9%)より著しく低いことがわかった。

ここでいう一次史料は主に兵法書、伝書、政策条例などの文字史料をさす。これらの史料の多くは漢文や現代中国語で書かれており、日本の研究者にとってアクセス困難なだけでなく、言語の障壁を乗り越えなければ分析不可能である。また、中国武術は長期にわたって中国の民間で発展してきた歴史がある。その過程で神話、伝説に付随する内容も多く見られる。したがって、中国武術に関する史・資料の収集・整理・翻訳を通して、斯界に流布する虚妄を排し、言語の障壁を取り除くためのグラウンド整理が必要とされる。加えて、中国武術は柔道、剣道、空手などを含む日本武道と技術的、思想的に深い関係を持っており、これらの一次資料を用いて、日本武道と中国武術の関係を明らかにすることができれば、両者の相対化や文化的固有性の闡明にも有意義な示唆を与えることが期待される。

2. 研究の目的

本研究の目的は日本における中国武術の受容と変容過程を明らかにすることと、日本武道が中国武術の近代化に及ぼした影響の解明である。そのため史料批判に基づいた歴史的研究が重要となる。しかし日本における関係研究の蓄積は浅く、加えて一次史料の不足もあげられる。よって本研究では以下の二つの課題を設定した。

■ 課題一 中国武術研究の基盤構築

上述の目的を果たすため準備作業として、現存する中国武術の史・資料に対する歴史的な批判検討、新たな史・資料の収集、重要史・資料の翻訳などを通して、最終的に中国武術研究の史・資料一覧を作成する。

■ 課題二 日本武道が中国武術の近代化に及ぼした影響

中国武術の近代化において西洋より直接的な影響以外に、日本を介在した間接的な影響も見られる。中国では1910年代以降にすでに柔道などの書物が翻訳された。課題二ではこれらの訳書を中心に、日本武道(特に柔道)が中国武術の近代化に与えた影響を明らかにする。

3. 研究の方法

課題一中国武術研究の基盤構築について、収集した中国武術関係の文字、音声、写真、録画など史・資料の所在、性格、概要を整理し、年代別、種類別の一覧を作成する。

課題二日本武道が中国武術の近代化に及ぼした影響について、『日本柔術』（中華書局出版、1917年、底本は講道館の教材）『率角法』（中央国術館出版、1932年、底本は『柔道教範』）などの訳書を手掛かりに、歴史学的手法を用いて、訳者の経歴や訳書が上梓されるまでの過程を分析、日本武道界における各底本の位置づけおよび訳書とその底本の比較分析、これらの訳書が当時の中国武術界にもたらした影響、という三点を中心に検討する。

4. 研究成果

中国武術の史・資料について、計2000点以上収集することができた。現在これらの史・資料の整理、アーカイブに取り組んでいる。主な史・資料は以下のとおりである。

- 『中国武術大典』（2012年、全101巻、漢代から1949年までの古籍324種を収録）を収集し、重要資料の日本語翻訳に取り組んだ。
- 『民国国術期刊文献集成』（2008年、全31巻、1912年から1949年までの主要な武術雑誌43種を収録）を収集し、重要資料の日本語翻訳に取り組んだ。
- 『中国古代武芸珍本叢編』下輯（2020年、全10巻、南北朝から中華民国期の武術伝書40種を収録）を収集し、重要資料の日本語翻訳に取り組んだ。
- 20世紀前半の中国で刊行された『日本柔術』（中華書局出版、1917年、底本は講道館の教材）『率角法』（中央国術館出版、1932年、底本は『柔道教範』）『短兵術』（教育部国民体育委員会主編、1945年）など日本武道と関係する一次資料を収集・複写することができた。
- 1950年代以降に中国で発行された10種の雑誌『新体育』（1951-76、複写資料）『武林』（1981-2008、116冊）『中華武術』（1982-2019、332冊）『武魂』（1983-2007、233冊）『柔道与シュアイジャオ』（1983-90、31冊）『武術健身』（1982-86、12冊）『搏撃』（1984-85、6冊）『少林武術』（1986-87、3冊）『中華気功』（1983、1冊）『中州武術』（1984、1冊）を収集・整理した。このうち日本および武道に関連する重要資料の日本語訳に取り組んだ。
- 1980年代以降に日本で発行された6種の中国武術関連の雑誌、『武術（うーしゅう）』（1982-2005年、112冊）月刊『空手道』（1982-94、6冊）『空手と武術』（1984、1冊）『中国武術』（1985-90、10冊）『武芸』（1993-98、10冊）月刊『秘伝』（1999-2023、18冊）を収集・整理した。
- 日本武術太極拳連盟の機関誌『武術太極拳』を創刊号（1984年）から2023年3月までの計397号を収集した。
- その他、『武術規則』（中国体育運動委員会、1959）『太極拳運動』（不昧堂、1977）『中国拳法正伝』（講談社、1985）など1950年代以降に日中両国で発行された中国武術関連の書籍（電子書籍も含む）計1027冊を収集・整理した。
- 2021-22年の間行われた、第30回JOCジュニアオリンピックカップ武術太極拳大会（神奈川）第39回全日本武術太極拳選手権大会（東京）第20回南関東ジュニア武術太極拳大会（埼玉）第77回国民体育大会武術太極拳競技会（栃木）などの競技大会でフィールドワークを行った。

日本武道が中国武術の近代化に及ぼした影響について、主に以下の成果をあげた。

- 『申報』(1872年創刊、1949年廃刊)の関係記事と、20世紀前半の中国で刊行された日本武道の訳書、中等学校で使用した教材などを用い、中国において日本武道はいつ、どのように紹介されるようになったのかを明らかにした。この研究は2021年に行われた日本武道学会第54回大会で発表した。
- 『新体育』、『中華武術』、『武林』、『武魂』など1980年代以降に発行されたスポーツ雑誌を用いて、日本武道はどのように中国の体育雑誌で表象されていたのかを明らかにした。この研究は2021年に行われた日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会で発表した。
- 柔道の技術(特に寝技、関節技など)がシュアイジャオ(投げ技を中心とした中国式のレスリング)に影響を与えたことを確認した。2022年5月米国シカゴで行われた北米スポーツ史学会で口頭発表を行った。
- 日本における中国武術の受容過程を中国の学術誌『体育科学研究』で発表した。
- 中国の伝統スポーツである太極拳が日本で普及した過程と、その過程における武道の影響について、韓国の学術誌で発表した。
- 中国武術が軍隊から省かれた背景、中国で「国術」と呼称された経緯、西洋スポーツの影響など時代の変遷との関わり、日本武道との関係、競技大会の歴史と競技ルールの制定・改定の過程、日本における中国武術の受容と普及などについて考察した成果を単著『中国武術の競技化ー日本での普及と武術性への影響』(早稲田大学出版部、2023年)にまとめた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 劉暢, 鄭卿元 | 4. 巻 25(4) |
| 2. 論文標題 近代以后中国武術在日本の本土化過程（近代以降の日本における中国武術の土着化過程） | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 体育科学研究 | 6. 最初と最後の頁 1-8 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 CHANG LIU, KYUNGWON JUNG | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 How did Ethnic Sports Disseminate to the World? - A Case Study on the Localization of Taijiquan in Japan before 1970s | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Research in Dance and Physical Activity | 6. 最初と最後の頁 1-16 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.26584/RDPA.2022.04.6.1.1 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 劉暢 |
| 2. 発表標題 近代中国における日本武道の受容とその影響 |
| 3. 学会等名 日本武道学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 劉暢 |
| 2. 発表標題 武術文化の流通と融合：中国の体育雑誌に表象される日本武道とその中国武術への影響 |
| 3. 学会等名 日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 CHANG LIU |
| 2. 発表標題 Exchange between Chinese martial arts and Japanese martial arts |
| 3. 学会等名 Fiftieth Annual Convention of the North American Society for Sport History (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 劉暢 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 早稲田大学出版部 | 5. 総ページ数 324 |
| 3. 書名 中国武術の競技化- 日本での普及と武術性への影響 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|